いわゆるセクト及び心霊集団

ムーン（文鮮明）運動

連邦共和国家族、老齢者、女性及び青少年省の委託により連邦行政管理局が発行

発行者：連邦行政管理局
発行所：ゲーリンガー社
この小冊子は連邦政府の公的研究書の一部であり、無料で提供され、非販売書として定められている

いわゆるセクトや神霊団体というような問題分野に関するある狙いを持った情報や啓蒙の研究書の中で、連邦政府は、その構造、組織、手口そしてその目的が、個人や社会に対して潜在的危険性を含みうる集団から市民を守るための、ある重要な文書を入手している。

この小冊子によって、ドイツに於いてすでに以前より活動を行っているムーン運動の活動に関する報告がなされている。このムーン運動への加入は、若者達やその親族にとってしばしばそれまでの生活形態の崩壊ということに結びついており、その集団へ身を捧げるあまり、教育や友人関係、そして家庭をも放棄されることが頻繁になっている。

元信者達が報告しているように、この全体社会へ深くはまり込んでしまうことは、このムーン運動によって、個人や家族にとっては親類を失ってしまうような、あまりにも大きな諸問題を引き起こすことに繋がっているのである。

この小冊子はそうしたことからの一つの手助けの指針であり、いわゆるセクトや神霊集団という問題分野の議論の中での事実に即した情報であり啓蒙の書となるものである。

1996年12月　ボンにて

ドイツ連邦議会議員
家族、老齢者、女性及び青少年省大臣
クラウディア・フォルク

目次

はじめに

I. ムーン運動とその創立者の歴史
1. 文鮮明の成長、彼の運動の成立と発展
2. ドイツにおける統一運動
II. ムーン運動の教えと指導システム
1. 文鮮明の教えの宗教的な目標設定
2. 文鮮明の権威的指導姿勢とムーン運動のヒエラルキー
3. このグループのエリート意識
a) 極度に単純化された世界観
b) サタン的周囲世界の制圧
c) 集団内言語と儀式
4. 婚姻と家族
5. グループへの結びつき
a) 勧誘方法
b) 統合と征服
c) 組織からの脱退

III. ムーン運動の全世界的な権力願望
1. 経済的諸企業
2. 文化的諸企業
3. 軍事的野望
4. 政治的企て

IV. 統一運動の組織と下部組織

V. 脚注
VI. 参考文献
VII. 呼びかけの場所 ―当事者だった人々への手助け

I. ムーン運動とその創立者の歴史

1．文鮮明の成長、彼の運動の成立と発展

ムーンもしくは統一運動は1954年韓国人文鮮明（ドイツ語ではMun、英語ではMoonと表記）によって興された運動で、そこには彼の無数の地下組織が付帯しており、ドイツにおいて最も知られているのは、「Vereinigungskriche e.V.―統一教会―」（組織の教会的範囲）、大学学生組織「CARP」（全国大学連合原理研究会）、そして政治組織「CAUSA」（以前は「世界的ソビエト化侵略に対抗する戦闘員」という名称であったが、今日での公式な名称は「アメリカ社会統一協会連合」となっている。※訳者注：新名称も旧名称同様に頭文字を取ってCAUSAという名称になるように配慮されている）及び「精神的指導のためのフォーラム」である。(1)

文鮮明は1920年2月25日（旧暦では1920年1月6日）、北朝鮮のキリスト教化が強く進んでいた地域、平安北道の農家の息子として生まれた。(2)
彼の両親は1930年に初めてキリスト教に改宗した。伝説的に著されているこの統一運動の伝記によれば、彼にとっては両親がプレスビテリアン派のキリスト教に改宗したことが、自身の宗教的問題の最終的な解明を意味していないというほど、少年時代の文鮮明は宗教的探求者であったという。(3)

普通人としての自身の生活を文鮮明は1936年のいわゆる「復活祭の幻影」によって終焉させたという。ある韓国の山上で復活祭の朝に、祈りの中に深く沈み入っていた時、ある現象を体験したという。イエスは彼に対してその時、イエスが二千年前に挫折した伝道を終わらせ、地上に天の帝国を築くことを彼に委任したというのである。長い抵抗の末彼はその任務を引き受けたという。(4)

彼に与えられた任務の内容は「復活祭の幻影」後何年かして初めて文鮮明にとってはっきりしたものになってきたという。９年間の継続的な探求と、文鮮明が精神世界の対話への努力の後、彼は神の真理を手中に治めたというのである。(5)

この間に彼は高等学校教育を終え、様々な宗教的潮流とのコンタクトを取り、日本において何学期か電気工学を大学で学び、またしばらくの間日本の底辺でも働いていた。彼は大学を修了することなく韓国へ戻ることとなった。(6)

同盟国による韓国の解放のおよそ一年後、この26歳の青年は当時のソ連によって作られた北朝鮮の首都平壌において新しい教えを広め始めた。彼は最初の信者を獲得し、最初の結婚をした。(7)

1946年彼は一時期、イスラエル修道院という組織に加入していた。その統率者は自らをメシアとみなしていたのである。(8)

1947年8月11日文鮮明は表向きは彼の伝道活動のために逮捕され、1948年の再度の逮捕の後、５年間の強制労働収容所行きの判決が下された。判決理由は議論の余地のあるところで、一部には重婚を訴えられて、有罪の判決が下されたとも主張されている。彼は既に結婚しているにも関わらず、ひどく若い信者と結婚したとのことである。(9)　他の文献では、この重婚の非難は後にはなくなったとも書いている。この有罪判決は単に治安妨害の結果であるというのである。(10)

確かな事は、文鮮明が1948年に韓国のプレスビテリアン派教会からセクト的策動ということで除名されたという事である。(11)

1950年秋に文鮮明は朝鮮戦争の統一国家の兵士によって、興南の強制労働収容所から解放された。(12)　彼は韓国の港湾都市釜山へ赴き、そこで彼の伝道活動が再開された。(13)　文鮮明はそこで、彼の教義の集大成である「原理講論」の少なくとも部分的な執筆者である劉孝元（後の韓国統一教会会長）に出会っている。(14)
1954年5月に文鮮明は「世界基督教統一神霊協会」（統一教会）を設立させ、活動の中心をソウルに移した。

（写真内の上の文章：世界平和への新しいヴィジョン）
（写真下の文章：出典：1988年世界基督教統一神霊協会）

1955年文鮮明は韓国において再び逮捕され、不法監禁並びに性的強要で訴えられた。(15)　この逮捕の背景には、有名な梨花女子大学の宗教担当の女性講師金永雲と数人の女学生が勧誘されたことと、韓国生まれのこの教会との対立があったようである。この訴訟事件の結果、彼の信者達は大学を去らなければならなかった一方で、彼に対するこの訴訟は程なくして取り下げられたのである。(16)　この事件の後文鮮明は最初の妻と離婚し、新たに再婚をした。(17)

1959年文鮮明は経済的活動を開始した。彼は無数にある彼の会社の最初のものを設立させた。今日の統一産業 というソウルの会社である。その会社は当時空気銃を、今日では臼砲と重砲を製造している。(18)

再度の離婚の後、文鮮明は1960年に現在の妻、韓鶴子と結婚した。この結婚（「子羊の結婚」）は文鮮明とその信者にとってある特別なそして根本的な意味を持っていた。それによって人類の新たな時代が始まったというのである。

60年代の初めこの運動の海外伝道が、先ずは日本へ、続いてアメリカへの伝道師の派遣がという形で始まった。(19)

1965年、彼はアメリカ合衆国やドイツをはじめとして、40カ国に及ぶ最初の世界旅行に

着手した。この旅行の間に文鮮明はこの統一運動の聖なる地として120の土地に恵みを垂れたのである。この旅行のハイライトは、韓国大使館によって仲介されたアイゼンハワー元大統領との短い会見であった。(20)

1971年、文鮮明は居住地をアメリカ合衆国に移し、彼の教えの計画的な世界展開を開始した。1972年に7都市を回るデイ・オブ・ホープ・ツアーによってそれはスターとした。1973年には21都市旅行と続き、1974年には32都市となった。最高潮に達したのが、1974年のニューヨーク・マディソンスクエアガーデンにおける5万人にもおよぶ参加者を前にしての文鮮明の演説であった。そして更なる高みは、一それは彼の説教活動の一時的な集結でもあったが一　1976年のワシントンのワシントンモニュメントでの演説であった。(21)

アメリカと韓国間の政治的な緊張のため、1978年にアメリカ下院の調査委員会が設けられた。委員長は下院議員のドナルド・フレーザーであった。この委員会はアメリカと韓国の間に関係する多くの地下組織を暴き出し、それは統一教会運動の役割にまで及んだ。初めて統一教会運動の諸目的の宗教的、経済的及び政治的な深い関わりが明るみに出たのである。(22)

1982年文鮮明は合衆国において脱税の罪で13ヶ月間の懲役判決を受け、1984年に彼はこの刑に服した。(23)

1990年、当時のソ連大統領ミハエル・ゴルバチョフはモスクワにおける第11回世界言論人会議時に個人的に文鮮明と会見をしている。この催しはメディア界の統一をねらって文鮮明によって設立され、はじめて共産圏で開催されたものであった。統一教会が主張するところでは、この会見が行われたのは、ゴルバチョフが文鮮明の重要性を認識しており、ゴルバチョフにとってこの出会いの理由は、この取引相手（文氏のこと訳者注）の経済的財政力とそれに結びついた経済的な援助にあるとみられるとのことである。(24)

1995年、文鮮明夫妻は、ロシア、アフリカ、南アメリカなど多くの国々への更なる伝道旅行に着手した。

2．ドイツにおける統一運動の成立と発展

統一運動の最初のドイツ人メンバーは1963年カリフォルニアにおいて勧誘されており、1964年にはすでに伝道師としてドイツとオーストリアに派遣された。(25)

この文鮮明の教えの根本ともいうべき「原理講論」はドイツ語に翻訳され、活動の最初のセンターがフランクフルトに設立された。(26)

1964年11月にはこの運動は「世界基督教統一協会」としてフランクフルトにおいて登録

されている。(27)

最初の何年かはドイツ連邦共和国内での広がりは小さなものだったが、1969年における統一協会ドイツ支部の新しい支部長が任命されるに際しての文鮮明の訪問の後、この状況は一変した。会社の設立（印刷会社、写真現像所、朝鮮人参製品の輸入販売会社等々）と最初のドイツ語新聞が印刷、配布された。協会メンバーによる共同生活と、協会の維持のため財政的分担が期待された。

また伝道の形態も変遷していった。最初の何年かは街頭で講演会への招待状が配られていたのに対して、執拗な方法に変わってきている。メンバーは例えば、「原理」を読み、大声で説教するために、公共交通機関を利用するのである。1971年以来ドイツにおける統一運動においては常時、伝道というものが存在している。70年代の半ばまでこの統一運動は二つの訓練センターを獲得しており、一つはヘッセン州カンベルクの近くにあるノイミューレ（新製粉所）、もう一つはフランケンにあるレーゲルスミューレ（規律的製粉所）である。(29)　1975年に「統一教会」という名称に改称した。(30)

1976年CARP（統一運動の大学組織）は大挙して連邦議会総選挙に介入したが、それは間もなく法的に禁止されるに至った。CARPの選挙ポスターは反共産主義、社会主義を煽動するものであった。(31)

メディアにおける反対キャンペーンは短期間でこの統一運動のイメージを悪化させるものであったが、彼らはこれを逆に利用しようとした。印刷物を利用した活動は改善され、街角での伝道はほぼ完全に姿を消し、いわゆる家庭伝道が導入されるようになった。(32)　そして講演会を通しての会員の両親へのコンタクトが強まったのである。(33)

1984年、当時のベルリンの壁での統一キャンペーンが行われ。このCARPは「聖なる土地」を捧げ、国際集会を召集した。(34)

1987年8月、それまでの開催地でも激しく反対されていたCARPの世界大会の第4回が、ベルリンにおいて催されたのである。警察と文鮮明に反対するデモ隊の間での激しい衝突が起こった。

CARPのこのベルリンでの活動に関して、文鮮明が今日主張するところでは、ドイツが再び統一され、壁が壊されることが可能になったのは、この統一運動の影響によるところである、というのである。(35)

1992年には「女性年」にちなんで、連邦共和国内で統一運動内での新しい設立があった。「世界平和女性連合」である。文鮮明のイデオロギーの下で世界の全女性の統一ということをその目的としたものである。この世界統一を目指した組織の会長は文鮮明の夫人

韓鶴子である。彼女は1992年及び1993年と続いてフランクフルトに赴き、召集された聴衆の前で演説を行った。文夫人はこの際明らかに文鮮明の教えの使者として立ち振る舞っていたのである。(36)

II. ムーン運動の教えと指導システム

1．文鮮明の教えの宗教的な目的設定

この統一運動の教えは本質的には、様々な書物に書かれている文鮮明の啓示「原理講論」ないし文鮮明の説教"Master Speaks（主のみことば）"に基づいている。この「原理講論」は文鮮明によって開かされた真理として我々の時代にも有効なものであるという。(37)

文鮮明は全ての存在の中には対極的な構造を含んでいると見る。世界の多くのものは相対する二つのペア（例：男性と女性、肯定的と否定的等）から成っているという一般的な観測から(38)、文鮮明は神も自身の中に男性的主体と女性的対象を統合させていると結論づけている。神は男性的主体という内面性であるということの一方で、女性的対象としての創造性を対極においている。この神の双方の極の間にある不変の交換、授受作用が存在するというのである。これが永遠なる神の存在の根本である。

神は、完全で罪のない神的なものに対する対峙者を作るために、人間アダムとエバを創造したという。その完全性によって三大祝福の実現に達したという。その完全性へと導く三つの神の祝福を文鮮明は次の聖書の言葉から取っている。「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ」（1.創世記 1、28）

最初の祝福である「生めよ」は唯一の人格の完全性を、第二の祝福「ふえよ」はその家族への完全性を導いており、そして第三の祝福は被造物に対する支配の完全性の内容を含んでいるという。(39)

神はこの罪のないペアから一つの三位一体（四位基台）を作ろうとしたという。神の目的は、地上に楽園を建設することであったが、この目的はしかしながら、堕罪によってすっかり膿んだものとなってしまったというのである。文鮮明の認識では、エバがサタンによってそそのかされ、人間はそれによって悪の道についたということによって、この堕罪が生じたということである。この楽園が罪に満ちた世界に替わり、サタンがこの世界の主人になるのである。(40)

文鮮明が唱えるところでは、神の元々の計画、即ち地上に天の帝国を再び作り上げるというのが神の目的である。この行程においては人間も又定められた役割があるという。人間は回復によって神とのつながりを再び取り戻さなければならない。人間個々は自分の力でそれが出来ないため、再臨主、メシアの助けが必要となるというのである。(41)

罪のない者としてのアダムが一人の罪のないエバと夫婦になり、サタンとも無関係な最初の「真の家族」を作る事がその優先的課題であるという。信者達は加入儀礼を通じてこの真の夫婦の子供となりこの「真の家族」の成員となるのである。こうして彼らは罪のない子供達を作り得るのである。(42)

なるほど神は、その理想観念を例えば第二のアダムたるイエスの地上への派遣を通して様々に試みたが、断念したのだという。イエスは早い時期の十字架での死により肉体的再生を成就することには成功しなかったというのである。神は原理的に一人の女性を再生することも、罪のない子供を作り上げることにも成功しなかったというのである。(43) さらにこの統一運動の教えによれば、第三のアダムが必要とされるのである。これが、信者より「真の父」と崇められる韓国で再臨したメシア文鮮明なのだというのである。(44)

文鮮明がメシアであるという重要な確証は、信者にとっては、1960年に女学生韓鶴子との結婚であった。このいわゆる「子羊の結婚」—それは罪のないアダムと罪のないエバの一致と価値づけられている—によって、文鮮明は神と人類の仲介者たるのである。(45) かれは他のあらゆる宗教が長く待ち続けていた中心たる人物になったというのである。「従って全ての宗教は、このキリスト教（統一教会を指す。訳者注）に委託することで統一されるのである」。この事はもちろんヒンズー教、仏教、イスラム教にとっても当てはまるという。(46) 文鮮明とその妻はこの共同体の「真の父母」として将来にわたりみなされ、その成員は「真の家族」となるのである。(47)

文鮮明の宗教的イデオロギーの目的は、地上に天の帝国を築き上げることである。すなわち彼の支配の下での全ての宗教の統一である。文鮮明はこの統一という概念を、決して様々な信仰的な主義主張の同権的並立ではなく、彼の尺度による絶対的な服従として理解しているのである。

「この天の帝国はまず地上に作られる。人間というのは一つの統一された世界を渇望するのである。世界は一つのイデオロギーと一人の父を必要としている。世界はただ一つの国となる。全ての国家が統一されれば、それらは神の支配の下一つの民族となるのである。」(48)

これにより明らかなのは、文鮮明は宗教的にばかりではなく、政治的な支配をも目指しているということである。

彼の教理というのは、他の世界観の諸要素から主要なものが組み合わせられているのである。韓国においてはそのような諸説融合(49)はけっして珍しいものではない。批評家(50)によって主張されるところでは、すでにこの「原理講論」というのは、文鮮明が一

時期加入していたイスラエル修道院の創設者であり責任者である金百文の「基督教根本原理」の本の剽窃にすぎないとの点である。(51)　このタイトルの疑うべくもない類似性と共に、この本はその内容的な相似性をも提示しているという。(52)

このキリスト教的概念からは他にも、アダムとエバとの楽園の具象的描写が剽窃されている。聖書においても述べられているこの堕罪は全く常軌を逸した説明がなされている。聖書においては、最初の人間たるアダムとエバの不従順によって堕罪に至ったのは、神によって禁止されていたにも関わらず、知恵の木のリンゴを二人が食べてしまったためであるということなのである。それに対して文鮮明はこの堕罪を、サタンによるエバの性的な堕落と見ているのである。この堕罪認識はすでに1688年ロンドン生まれの科学者、神智学者エマニエル・スウェーデンボルグとその信奉者達によって主張されたところである。文鮮明はソウルにおける高等学校時代にすでに、聖霊降臨団やスウェーデンボルグの信奉者である騎士団の創始者達（李龍道のような）との接触があった蓋然性は高い。(53)

この教理の強いメシア的派遣意識は幾つかの韓国の宗教―金百文においても同様で―に見出されるところである。(54)

今まで述べてきた要素と共に、文鮮明のイデオロギーには東洋的知も垣間みれる。万物の対立性という彼の認識は、儒教の陰陽思想によっているということも部分的に主張されるところである。(55)

2．文鮮明の権威的指導姿勢とムーン運動のヒエラルキー

この統一運動の中で文鮮明は絶対的権威者となっている。(56)　信者から「真の父」として崇められている文鮮明はメシアとしての彼の役割を完全に確信している。：

「.....神は私をその任務を遂行する上での道具として任命したのである。私は神の真理を神に代わって明かす為に呼ばれたのである。私はイエス・キリストやこの生ける神と直接関係を持つように指名されたのである。」(57)

1994年におけるこの運動の40周年において彼は告げた。「真の父母として現れたそれはメシアである。神はこの任務を遂行するために私を指名したのである。」(58)

文鮮明自身は自らを、神の如く感じ、それ故決して罪を犯すことのない完全な人間であると見ている。「この者はそれ故、神の寺院になり、それにより神的実体となるのである。かれはすなわち神的な価値を有するのである。(59)

それにより彼は自身の見解によれば同時に全宇宙を治める能力を有しているのである。(60)

彼によって祝福を受けた最初の36家庭の男性達（たいていが韓国人）が彼を支持して仕えている。彼らは文鮮明がもつ企業のほとんど全てで最高の地位を占めている。この家族の子供達はできる限りこのサークル内でのみお互い結婚がなされるのである。(61)

1992年以来、文夫人も公に姿を現すことが多くなっている。たいていは会長を務める「世界平和女性連合」においてである。

文鮮明の長男、孝進はCARP世界統一の会長に指名され、そこでの学生のスポーツ及び世界会議を主幹している。国々においては国の父、国の親と呼ばれる者達—この者達には「36家庭」の中からの一人の顧問が彼らのが側に立って世話を行っている—がこの統一教会を指揮している。この下に各地区の責任者がいるのである。この者達を中央の指導者達が管轄しているのである。

単なる一介のメンバーというのは、中央の指導部やより地位の高いメンバー達によって完全な支配下に置かれている。それは「非個人的なもの」なのである。(62)

指導幹部の養成は、独自の教育機関所在地であるニューヨークのベリータウンにおける統一神学校において行われる。その卒業生は主に資金調達と戸別訪問伝道が訓練される。(63)

3．このグループのエリート意識

この統一運動の信者達は、この成就される人生の唯一の鍵を所有していると信じている。彼らは自身を、神の帝国をこの世に作り上げることに貢献する選りすぐられた者（神の勝利者、神の兵士）と理解している。(64)　この任務は、彼らの見るところでは、明らかに世界のその他の者から彼らを際立たせているというのである。(65)

個々のメンバーは、グループの諸条件が満たされ、その苦労に対する感謝の念を文鮮明によって受け入れられたとき、世界救済に貢献し得ると信じている。(66)

このエリート意識は、回りの世界との明らかな距離と、特定の生活概念や行動概念の中で意見を述べるこのグループの排他性というものを導くのである：

a）極度に単純化された世界観

統一原理の教理は信者達にはある非常に単純な世界観を伝えている。「対立的原理」によれば「善」又は「悪」或いは「この運動への肯定」又は「その否定」といった単純な区別しか存在していない。妥協といったものはあり得ない。文鮮明の信者は「神の戦士」として常に善の側に位置し、他方でこの統一運動の外部にいる人類は破滅への判決が下されるのである。(67)　文鮮明やその教えに対する批判はサタンの攻撃とみなされる。(68)

最終目的の成就は、個々人がグループとして一致した行動ができるかどうかにかかっているのであって、グループそれ自体ではないのである。不成功は信仰の足りなさとこの運動の中での関与の少なさを意味している。(69)　人間間での争い事がもし起れば、常に簡単な解決策がある。このグループへの服従、すなわちより身分が高いグループのメンバーの下に入ることである。他の方法はサタンの術中にはまり、この運動の目的を危うくするのである。(70)
このグループ内での更なる手段、共通性は思考停止のテクニックである。極度に集中的な祈り、歌、口ずさみ、瞑想がこれにあたる。この方法は心理治療の分野でもその使用が見られるものである。この統一運動の中ではしかしながら、メンバーがグループに対して批判的、敵対的な考えををしないように、自動的にその思考停止というものを用いるように訓練されているのである。(71)

b)「天の惑わし」の助けにを借りたサタン的周囲世界の制圧
地上における天の帝国の再生のために文鮮明の認識では、サタンを出し抜き、その所有物を一個一個剥奪するためには、あらゆる手段が許されるという。(72)
この統一運動の目的のために受け取られ得るそれぞれの物、人や土地は、この悪に対する勝利を意味している。そのため、この神の計画に権威を持たせる為には甚だ多くの人員が動員されなければならないのである。(73)

元信者達から何度も報告されることは、彼らが資金調達と対話者の勧誘を行う際、その真の目的と背景を偽っていたということである。この態度は文鮮明によって「天の惑わし」と名付けられた。彼はそれを聖書と神の態度から正当と主張しているのである。

神は最初の誕生の権利を獲得したヤコブの惑わしを、それが神の目的に尽くしたという理由で正しいこととみなしたとある。（旧約聖書　2.創世記参照）(74)　この統一運動の真の目的に関する世間への惑わしは、それ故認められた手段であるというのである。

この「天の惑わし」は統一運動の全ての活動に渡っている。

—資金調達
この統一運動はこれをサタンに対する財政的戦いと理解している。

集められ得るどんな金額もサタン的影響圏の減少という意味を持っているのである。同時に金銭提供者は天の救済の分け前を買い取るという事なのである。この戦略方法を文鮮明は日本において試し、発展させたのである。(75)

メンバーは10人から12人の集金チームに分かれ、そのグループの中では文鮮明の企業から調達される安い製品の販売者としてたいてい二人ないし三人の人間が活動している。彼らは、社会施設、年配者のパーティー、幼稚園、若い音楽家のため、等々と偽るので

ある。(76)

60年代、70年代には文鮮明のこの運動の中には「インターナショナル・ワン・ワールド・クルセード」という独自の組織があり、この組織はもっぱら資金調達チームの全世界的な展開に携わっていた。何百という信者達が全世界において出動し、彼らは数週間現場に留まり、そして更なる出動にと転地して行くのである。その際問題となるのは、文鮮明が特にアメリカにおいてその目的の追求を発起する政治的デモへの組織的割り振りである。(77)

1978年のアメリカ政府の調査報告（フレーザーレポート）によると、統一運動の中心となる資金調達チームは日に正味で千ドルを集めることが可能であるとのことである。(78)

ある元信者の報告では、彼は6年以上のこの運動の所属中に総計60万ドルを集めたという。これは日収にして平均256ドルになることを意味している。

—勧誘（伝道）
この運動の個々のメンバーは「精神的な子供」の勧誘によって、その精神的発展のレベルを示し、同時にサタンの世界を狭めて行かねばならない。(79)
その際にすぐにその勧誘目的を明らかにすることは問題ではない。この目的を持った「天の惑わし」によって、潜在的な犠牲者たる人々の講演会やグループでの会食、或いはワークショップへの案内が試みられることがあり得るのである。(80) 新しいメンバーが一度でもそのグループのセンターに足を踏み入れれば、その者はあまりに歓迎されるため（いわゆる「愛の爆撃」）退会することが難しくなる可能性があるのである。(81)

このサタンに対する新しい力の動員化と、この運動への勧誘はあらゆる手段を神聖化しているのである。(82)

—政治的、文化的及び経済的行動
文鮮明自身も公衆の面前では、彼の政治的目的を覆い隠すためにこの「天の惑わし」を利用している。1974年の韓国からの国連軍撤退に反対するデモの前に彼は次のように言っている。

> 「汝らの発言は決して政治的な性質を有してはならないということを考えねばならない。『我々は政治的なことに興味を持たない』と言わねばならないのだ。我々がこれを行うのは政治的な理由からではなく、人間的理由からなのである。」(83)

文化的分野においてもこの「天の惑わし」の原則はうまく使われている。フレーザーレポートは、韓国の舞踏グループ「リトル・エンジェルス」が外国為替の密売買に悪用されたということを指摘している。同様にこのグループを通して、政治的な決定権を持つ

者への接近が試みられた。(84)

人がリトル・エンジェルスのことを質問したとき、彼女らは、文鮮明がリトル・エンジェルスの設立発起人であると簡単に言うであろう。我々がリトル・エンジェルスに対してあまりにもあからさまに我々の主人や教会からの後押しを受けている点を公表すれば、文鮮明は自分の名声のためにこれらの子供達を動員しているというサタンの攻撃に遭ってしまうだろう。」（1973年幹部情報）

オーストリアにおける統一運動の告示では、文鮮明によって設立された「青年宗教者奉仕団」（全世界における20代、30代のための会議）によって何百もの人間が世界平和の主体的展望に啓発されたことが誇らしげに報告されている。この参加者達は今や、「原理講論の神学的観点を知ることもなく、統一運動のメンバーであるというのでもなく、責任に満ちた任務の中で父の理想を次々と伝えて行くことになる」のである。(85)

統一運動の経済的諸活動の中で、見た目には、会社はそれぞれお互い独立して行動しているようである。しばしば経営幹部に関してのみこの運動とのつながりが証明されることがあるくらいである。

例えば、統一運動の最高幹部であるKae-Hwan Kim 博士は1962年に奨学生として来独し、経済学を研究し、優秀な成績で卒業している。彼はボッフムのルール大学で研究助手として勤務していた。1979年にデュッセルドルフにて、機械工作のための有限会社Sae Il輸出入社を設立させた。1980年にはじめてKim 博士が文鮮明の最高幹部になったということが知られるようになった。彼はまたギーセンにおける文鮮明の会社Wanderer の支配人に任命された。(86)

c）集団内言語と儀式

表面的に見る限り、統一運動の言葉においてほとんど通常言語との違いは現れない。しかし外部の人間が発言された内容を理解しようとつとめると、通常の概念が別の意味をつけられているということが明らかになる。

「授受」、「主体と対象」などはこのグループのヒエラルキーからの出た概念である。下部は常に「与えられる者」、対象であり、主体と「与える者」だけが上部に位置し得るのである。

カインとアベルの問題は個人的なつながりの分野からの敷衍的概念である。下部に位置するメンバーは常にカインの役回りにある。カインがアベルを殺したため、かれはその償いとしてか弱きアベルに屈服しなければならないのであり、それによって彼はサタンの影響から解放され得るのである。この摩擦解決は常に従属の中にあるのである。

イサクもまた文鮮明の償いの教理の概念である。信者達はアブラハムの位置に置き換え

られ、イサクを彼らの指導者に捧げなければならない。多くは、最後の個人所有物、親とのつながり、友人、知人、または愛蔵書などがその際に問題となるところである。

アメリカ人の元信者B.アンダーウッド氏が報告するところでは、あるメンバーは実の子供—この子供は文鮮明によって祝福を受けたつながりとは関係のない子供であるが—とのコンタクトを犠牲として捧げたということである。(87)

「エンジェルのような」とは単に悪いということである。なぜならサタンは堕天使だからである。

「真のキリスト者」とは、この運動の言葉使いでは文鮮明の信者という意味しかない。教えの上での養子縁組という精神的再生によって信者達は真の人間として、真の父母の子供として生まれ変わるのである。(88)

このような言葉使いによって信者達は、次第に通常の言葉を忘れてゆき、もはや彼らの言葉や思考図式に合わない一般世間の諸概念の理解に関係づけることがもはや出来ないのである。(89)

一般世間からの更なる隔絶、エリート意識の助長へは、統一教会信者の日常生活の儀礼化が寄与している。このグループにおける特別な規範は、それぞれが発展を遂げるために、自由な空間を与えないということである。他のメンバーが常に近くにいるという事で、離れることが不可能になり、グループの処罰もすぐ成功するのである。

—宣誓

誓いは毎週日曜日の５時、毎月の最初の日、及びこの運動の祭典日の度に唱えられる。この儀式は正確に規則づけられている。手や足の動きのきまりごと、衣装、態度、おじぎの仕方、部屋の飾り付け、祭壇の飾り付けに関して正確な指示書がある。誓いの言葉の声の大きさはどの参加者にとっても唱和できるものでなければならない。可能なら韓国語でそのテキストは読まれることが望ましい。この宣誓がもし途中で放棄された場合、この者とその家族はサタンに属してしまったということなるのだそうだ。(90)

統一教会の誓いの言葉

1．天宙の中心存在として、父の御旨（創造目的）と任せられた責任（個性完成）を全うし、喜びと栄光を帰し奉る善き子女となり、創造理想世界において永遠に父に仕え奉る真の孝子女となることを私はお誓い致します。

2．父は六千年間供物として十字架路程を忍ばれ、死したる私を真の子女として活かすべく、み言と人格と心情を与え一体化せしめて、天宙の相続権を与えたまわんとなさる聖なる御旨を私は受け、完全に相続することをお誓い致します。

3．怨讐によって失われた子女と天宙を復帰せんがため、父は父母の心情を抱かれ僕の体を受肉し給い、汗は地のために、涙は人類のために、血は天のために流され、私の身代わりに歴史路程における怨讐サタン粉砕の武器を与えたまい、それらを完全に審判するまで父の性相を受け、真の子女私は敵陣に向かって勇進することをお誓い致します。

4．父は平和と幸福と自由と理想の源泉であらせられ、父を奉る個人と家庭と社会と国家と世界と天宙は、本性の人間を通じてのみ心情一体の理想世界を完結することができ、私は真の人間となり、心情の世界において父の代身者となることによって、被造世界に平和と幸福と自由と理想をもたらし、父に喜びと満足を帰し奉る真の子女となることを私はお誓い致します。

5．我々は神を中心とした一つの主権を誇り、一つの民を誇り、一つの国土を誇り、一つの言語と文化を誇り、一つの父母を中心とした子女となったことを誇り、一つの伝統を受け継いだ血族であることを誇り、一つの心情世界を成す役軍であることを誇り、これを実現せしめることを私はお誓い致します。

このような義務と使命を成就せしめるため、責任をもって生命を賭けて闘うことを私は。
宣誓しお誓い致します。
宣誓しお誓い致します。
宣誓しお誓い致します。

※第五節は常に韓国語でなされることが要求される。

—祝典日
この統一運動においていくつかの祝典日、記念祭がある。それらはたいてい陰暦に従って執行される。正月の「神の日」だけは陽暦に沿って行われる。自由意志による真なる親に対する御供はどの祝祭日にもあてはまる。(91)

—聖塩
世界と人間をサタンの影響から助け出さなければならないという考えが、文鮮明の信者の行動を支配している。祈り、断食或いは特別な会合などといった一般的な約定とともに、ロウソクと聖塩を使った特別な清めの儀式がある。この行いの次第は正確に文章化されている。外部からこのセンター内やある関係の住居に運び込まれる全ての物には、塩がかけられるか、ロウソクの煙で燻されねばならない。これによってサタンの影響が取り除かれるのである。ある者が特別なサタンの影響をによって悩んでいる場合、その者は同様に塩をかけられる。服はそれによって清められ更なる攻撃から守るられるというのである。(92)

—マッチングと祝福
マッチングの際は、写真により、文鮮明によって祝福をされるべき将来の伴侶が決められる。この祝福の前の「聖酒式」での血飲（文鮮明によって配合された飲み物）によってサタン的な血筋は消え、メンバーは精神的に「真のキリスト者」、「真の父文鮮明」の「真の子供」として生まれ替わるのである。(93)

1995年8月25日の36万組の祝福の後、文鮮明は1997年11月にアメリカのワシントンD.C.において、360万のカップルによる集団結婚式をもくろんでいる。

4．婚姻と家族
統一運動の教理の中では婚姻と家族は中心となる制度である。文鮮明はあらゆる演説の中で何度もこの婚姻と家族については強調している。(95)　しかし彼が考えるところのこの制度は、ドイツ憲法の中で固定化している家族概念とはほとんど一致していない。

文鮮明は伝統的意味での家族とは違う「家族」を考えている。すなわち、彼のことを「真なる父」としてみている信者のことをそう呼んでいるのである。「真の家族」というときはあらゆる他の条件に優先している。なぜならそれは永遠に求められるものであるからだ。

新しい罪のない人間の家族を達成するために、文鮮明は合同結婚式を行うのである。その際に彼は、彼が組み合わせたペアに祝福を施すのである。この目的のために彼は、各国から送られてきた写真でお互いが結婚するためのパートナー選びを行うのである。この文鮮明によってもたらされたパートナー選びに対して、それぞれのケースで異議が唱えられることも可能であるが、しかしそれはたいてい、この決定が受け入れられたとい

うことから出発しなければならない。(96)

この受け入れとは、一方では、信者達が、文鮮明は写真を見ることで正確なパートナーの心を認識することが可能な、透視的能力を自由に操っているということに対する信仰を持っているということに基づいたものであるということ。他方で理解しておかなければならないことは、この共同体から破門され、サタンに帰属してしまうという事に対する集団的抑圧や恐怖が恐ろしく大きいということである。(97)

ハンブルクの法務局は、文鮮明によってなされたある婚姻を婚姻法第34条によって破棄したのである。というのは女性側の事情聴取によって、この結婚承服は、婚姻成立への自由な決断を妨げるような共同体の脅しによってある強制された状況に置かれたためのものであるという結論に達したからである。(98)

文鮮明によるこの祝福（いわゆるBlessing）は、しかしながらこの婚姻締結だけを内容として含んでいるのではない。この祝福の本来的要素は。「真の家族」への文鮮明による二人揃っての養子縁組ということなのである。(99)

映画やテレビのレポートで、何人かの夫に関しては、そのパートナーだけが儀式の間、写真を携えて出席していた場面が映し出されていた。それを見る限り、死亡した文鮮明の信者と共に生きている者の間の祝福が可能のようである。(100)

この結婚する二人によって祝福の際に述べられた約束は本質的に文鮮明に対する宣誓となる。この二人は彼の原理に従い、この関係がうまく行くための責任を負うことを誓うのである。(101)

40日間から３年に及ぶ聖別期間と言われる一定の期間の後、ようやくお互い親密な交渉を持つことが許される。韓国からの報告では、最初の性的な交わりは強く儀式的で、その詳細を文書で報告しなければならないという。（例えば、アダムとエバの具現たる男女の位置関係など）(103)
この儀式の目的は、文鮮明の信者の増数化である。すなわち罪のない、サタン的血族に決して墜ちない「真のキリスト者」の生産なのである。

子供の出産と養育はこの統一運動の中では女性の役割に還元される。家族の生活や子供に対する世話義務さえもこの運動の目的に従っているのである。ある文鮮明の女性信者の手紙から明らかになったことは、よどみのない伝道活動が保証され続けるために、小さな子供の世話取りは他の者にまかせられるということである。

「私がプラハを目指してリスボンを発ったとき、子供達は置き去りにされた。デビッドはまだ母乳を飲んでいた。私を救ってくれたのは真なる父の次の言葉であった。
『……感傷的にならないように私は子供の写真を見ることを断念し、神の仕事に専

念したのである.....」。私もそうしよう。私はたった一枚の写真を持っていたが、ほとんどそれを見ることはなかった。このときデビッドはある事故に遭っていた。.... 私は彼がいつかその事を誇りに思ってくれることを希望している。なぜなら彼はそれを一つの犠牲として尽くすことが出来たのだから。」(104)

この手紙から更に明らかになったことは、この子供達の父親も又同じ時期に少なくとも５カ月間、外国派遣の途上にあったという事である。

より高度な目的の下で、この個人性やあらゆる個人的なつながりというものを従属的地位におくということは、あるなお露骨な家族生活への介入を後づけることが可能である。年齢的な或いは健康上の理由から子供を授かることができない他の夫婦に「真なる子供」を授けてもらうように、文鮮明は信者からそれを求められるのである。そうなる前に、子供を産み、手許においておくべきだったのであるが。(105)

５．グループへの結びつき

統一運動への入口というのは、回心が行われる様々な局面で起こることである。

新しいメンバーは、その意識、態度、情報源及び思考をこの運動のコントロール下に置こうという目的を持った、定められた管理機構を通らなければならない。目的は自身の人間性を、このグループのアイデンティティーにすり替えられた新しい人間のにそれに作りかえることである。

この種の人間性変質化が如何にして機能するかを、アメリカ人ガリー・シャーフ（彼自身以前は学生組織CARPの会長であったが、退会後は、訴訟手続きのかたわら、「思考の自由リハビリセンター」―ここではその他、元信者の治療も行っている―の会長も務めている）は実例を挙げて説明している。：

「一人の人間を彼の家や友人から引き離しなさい。朝７時から夜の１時まで続き、私用は決して許されない　―たとえ一度の洗顔も食事さえも―　自由のない計画的なプログラムによって彼自身の意識を剥奪せよ。宗教的観念をこの諸要素に大量にそそぎ込め。それは受講者を混乱させ疲労に追いやり、彼がその一つにでも疑わしいと思ったり、講話に完全に従う事が出来なかったのは自分が悪いからであるという事実を除いては、もはや何を言われたのかも分からなくしてしまうのである。睡眠不足とタンパク源の不足した食事は、それらがこの人間を肉体的に切り詰めて行くことによって、この行程をより補強するのである。」(106)

a）勧誘方法

70年代、80年代にはこの統一運動は、特別に執拗な勧誘方法により、注意を引いた。(107)　メンバー達は様々な方法で積極的にセンターや彼らの共同住居におびき寄せようと試みたのである。

わずかの間にドイツの大衆の間には、このグループに対する強い反対姿勢が起こり、このことが彼らの伝道方法を変えさせることとなった。いわゆるHome Church Mission 家庭教会伝道が導入されたのである。

ある一人のメンバー或いは一家族は、伝道すべき特定の居住区を割り当てられる。友人的つながり、子供の面倒を見たり、介護が必要な人の世話取りといった諸援助などを介して、相互の人間的関係を結ぶのである。それが結果的に新しいメンバーに導いて行くことにつながるのである。(108)

ドイツの統合以来、街頭伝道というのが再び強まっている。統一運動は大都市の歩行者専用ゾーンに情報スタンドを設けている。それらは全く多種多様な名称で登録されている。(109)

ここには近年、第一世代の子供達（16歳から21歳）が広報員として投入されている。(110)

ここでのあらゆるキャンペーンの対象は、主に若者である。若い、教養のある信者の獲得により、この運動のドイツ社会における影響力の増大化が期待されているのである。

オーストリア支部の会報の中では次のように書かれている。：

> 我々の主な対象グループはモーツアルテウムなどにきた学生である。本と情報スタンドを我々は、特に法学部、神学部、人文学部から離れていない場所であるアルターマルクト広場に敢えて設けたのである。(111)

大学における最も重要な勧誘グループはCARP（Collegiate for the Research of Principles）である。

彼らは全ての国の大学において、世界学生会議の開催（例えばバンコック）、スポーツ大会、講演会や昼食会への招待等による勧誘活動を行っている。(112)　韓国や日本においてCARPはあらゆる大学の自治会の中で独自の発言をし、中には自治会長を務めているところもある。(113)

CARPの会則から、なぜ学生の勧誘がこの統一運動の目的にとって大きな重要性を持っているのかがはっきりと理解できる。この組織の主要目的は、
「全世界的範囲に向けられた教育制度の促進、そしてこの教育制度を全体的に刷新化するための教員教育」

その規約の中には更なる、いわゆる目的といえるものが次のように書いてある：民主主

義におけるキリスト教的原理の新たな復活、宗教と学問及び東洋と西洋の文化の統一、共産主義に対する批判、大学システムに関する情報の供給。

この規約から明らかになっていることは、ここで報告されている第4項目の活動の理論的土台が統一哲学（統一思想）であるということだ。この哲学の内容は詳しくは解説されていない。未熟な入会希望者はCARPが統一運動の下部組織だということを認識していないのである。(114)

CARPの学生から期待されていることは、彼らがそれぞれの大学に散らばり、そこで学生の決定権に影響を与えるような新しい下部グループを作ることである。この下部グループは全幹部に対して責任を与えている。（規約第11及び12項）同時にこのCARPは政治的な統一組織CAUSAの下部組織でもある。

b）統合と征服

数年以前から若干ではあるが本質的に内容の一致した元信者達の報告書が存在しており、それらはシャルフによって叙述された操作およびコントロールテクニックを裏付けるものである。(115)

事実、当時新たなグループの会員達は社会の目前から消えていた。彼等はトレーニングセンターまたは共同宿舎に滞在していたか、もしくは移動伝道チームに同行していたからである。彼等は家族や友人には一切連絡は取っていない。統一運動に関連した「洗脳」や「誘拐」についてが、頻繁に報告されていた。

それまでの生活環境から離脱していく過程は、入会当初に他人と接触する機会がコントロールされ、規制され、また場合によっては阻止されることによって押し進められている。(116)　この場合には親戚や家族の便りは本人に手渡されることはない。新規会員の入会に用意されるワークショップでは、公衆電話が監督下におかれ、必要な場合には切断されることもある。(117)

新入会員はこの運動の目的の為に、自己内省する時間を許さないといった方法で緊張状態に置かれることとなる。職業や学業はもはや運動の目的に従うためには放棄されたり顧みられることはない。
活動の成功は信仰への忠誠や、精神的な発展の現われであるという根本原理に忠実に従って、会員は広範囲に及ぶ伝道活動へ投入される。会員は、「・・・世界の救済のために時間、資本、そして自らの身体を捧げることを信念としていた。」(118)

この集団の会員たちは読書のための時間などもはや許されていなかった。個人の書物も「捧げられた」のである。書物、ラジオ放送並びにテレビ放送からの信者の隔離と集団内での会話の制限は「情報コントロール」に役立つものであった。これはさらに、集団

や教義に対する批判的な見方をさせない上で効果を上げることになった。(119)

共同体への個人の依存性は、会員がグループに個人の所有物を委譲することによって強められる。それは貯金から車、さらに銀行口座にまで及んでいる。(120)

コントロール、及び操作テクニックの結果は法廷での証言が明らかにしている。

「『お前の「管理者」が常にお前に言うこと、それが真実だ。それのみが真実だ。』それについて疑いを持つことはあり得ない。彼らが続いて言うことは、『お前が理解できないことを信じよ。ついには全て自動的に答えが探されるようになる。自動的に答えれるようになればそれだけその者はより信用に値する者となるのである。』」(121)

近年、文鮮明運動のドイツ支部が一見リベラル化（自由化）されているような報告がなされている。それに対して、とりわけドイツ新州（旧東ドイツ圏）からの報告されていることは、この統一運動は相変わらず、「真の父」へ献金するために、他のヨーロッパ諸国へ「寄付金」集めのために会員を送り込むこもうとしている、ということである。(122)

ある女性の脱会者は、彼女が強要されたことはそればかりではなく、5週間にわたる金集めへ赴くための費用として、彼女の住居を手放すことすら求められたと語っている。(123)

このように、寄付金の為に動員された会員は、組織に金銭的に従属してしまい得る実体が浮かび上がってくる。

c) 組織からの脱退

会員一人一人が組織の強要から個人的に逃れることは先ずあり得ない。反対に、組織に導入されたメカニズムは脱退を妨害するように働いている。外界との隔絶状態は外部の人間と再び接触することを非常に困難にさせている。除名の恐怖は脱退への意志を怯ませまたとどまらせるように作用しているし、脱退は会員にとって社会的に、また金銭面に重大な問題となっている。(123)

アメリカ支部から脱会したあるドイツ人は自分の体験を以下のように述べている。

「正に驚くべきことであり恐ろしいことは、知的な批判精神を持った人間が、批判的な思考能力のない熱狂的信奉者へ転向していくという事だ。これは私にも起こった事であり、また私の友人の多くが10年経った今日でさえ未だにこのセクトから離脱できないでいる。私は非常に幸運だったが、私のように、愛情に満ち、支えてくれる両親の家を持っていない者はどうなるのだろうか。」(125)

このように統一運動からの脱退の最大のチャンスは、両親や或いは友人が組織に対抗して真摯に会員にコンタクトを差し向けることである。

III. 全世界的な権力願望

文鮮明が説く目標というものは彼の支配下における全世界の統一というものである。「原理講論」は次のような文章で結んでいる。

「真の父たる再臨の主の下、一つの大家族による理想世界が作られるとするならば、当然言語は統一されなければならないのである」(126)

この統一運動の主張によれば、文鮮明は理想世界の創造を、政治的な世界秩序の建設と理解するのではなく、実際の、聖書の言葉に対比せられる具象的表現こそが重要だというわけなのである。

この主張が疑うべきものだという理由は、一つには「原理講論」によれば、理想世界の創出への道とは、それは精神イデオロギー的に、もしくは肉体軍事的に勝ち抜かれる第三次世界大戦ということだからである。この第三次世界大戦ではサタンの世界（すなわち共産主義）が征服されることになるという。(127)

第三次世界大戦という言葉の選択でも描写でもないものが表現されており、「神話的神学」というものが問題となっている。むしろ、世界的視野にたった目的の実行というものをこの具体的な概念の記述が暗示しているといる。

統一運動の教えに従えば、先に述べた第三次世界大戦は共産主義の精神イデオロギー的征服によって終焉するという。この勝利の兆しが、文鮮明のゴルバチョフとの（1990）及び金日成との（1991）会談であった。それらは「カイン型」のイデオロギー的な消滅を象徴しているのだという。また、第三次世界大戦は精神的には完結されたものとして明言された。1990年以降、統一運動にとって最終的な「新」人類の完全な統一が始まったわけである。(128)

当時会員であった者の証言(129)や機関誌にみられる代表的な文章(130)ならびにとりわけフレーザーレポート(131)の認識するところでは、文鮮明は世界規模の神権政治—つまり、教会と国家との分離を廃止した新しい世界秩序—を作り出そうと計画しているという。フレーザーレポートには様々な機関誌や文鮮明の演説—そこで彼は世界征服を指揮する彼の野望を具体的に述べている—が引用されている。

「私に関係なく、私の言葉がそのまま法となる時がやってくるだろう。私がそれを望めば行われるのだ。私が欲しなければ行われないだろう。私がある国のために特定の大使を推薦し、私がこの国を訪問し、また公職に就いているその大使を訪ねた

ならば、彼は赤い絨毯で私を歓迎するだろう。(132)」

「・・・中世において教会と国家は分離されていなければならなかった。なぜならば、民衆は当時堕落しきっていたからである。私たちの時代ではしかし、世界を統治するためには自動的な神権政治を持たねばならない。つまり、私たちは政治と宗教を分離できないのでる・・・。宗教と政治の分離はサタンがもっとも好むものである。」(133)

文鮮明は彼の統治願望をアメリカで行われた公式の演説においても発言している。

「世界は指導者を有していない。ロシア人にしてもアメリカ人にしても然り。彼らは真の指導者を呼び求めている。
お前たちは信じているのか、彼らが呼び求める指導者は、アジアの文鮮明という男だということを。(134)」

1．経済的諸事業

彼の目的の実現には文鮮明は莫大な資金を必要としている。その財源の一つが彼の信奉者であり、彼らは「寄付」、労働力及びと莫大な集金力で文鮮明に寄与している。

それのみならず文鮮明は世界規模で株式の経済事業を運営することによってさらなる収入源を自ら開拓している。

1959年にはすでに文鮮明は銃製造工場を手始めに「エホバショットガン」を設立し、それは後に韓国政府への代表的な武器納入業者の一つにまで成長している。(135)
今日ではこの会社は「トンイル（統一）カンパニー」と称し、それは国際的な工場機械コンツェルンとしてドイツ国内においても様々な会社と取引をしている。(136)

文鮮明のアメリカ移住後の1973年、初めて設立した会社は「トンイルエンタープライズ」（ニューヨーク）であった。この会社の目的は当初は、大理石の花瓶と朝鮮人参 製品の輸出入であった。そのうちに韓国にある母体会社と並んで世界各地に支店を持つようになり、アメリカ、日本、イギリス及びドイツの会社と提携を結んでいる。文鮮明は朝鮮人参貿易の80パーセントまでを当時占めたこともあったようだ。(137)

今日、チタン、ケイ素等化学会社、海運業、アラスカのマグロ漁船団、アメリカでの魚加工場、美容コンサルタント、空手道場、ピザ店、花屋、旅行代理店及び韓国語学校等が統一運動の所有となっている。また、とりわけ重要視されているのが韓国語である。文鮮明帝国では唯一韓国語が話されるようになるといわれているからである。(138)

文鮮明はアメリカへの移住当初からもくろんでいるのが同地での大銀行（Diplomat National Bank）を支配下に治めることであった。もしそれが成功すれば、それによりあ

らゆる経済領域へ影響を与えることが可能になるからであった。文鮮明と彼の配下が偽の申告により、64パーセントにものぼる株を獲得してから、アメリカ政府はこの計画をとん挫させることにようやく成功したといういきさつもあったのである。(139)

ウルグアイにおいては文鮮明は成功を手中に納めるにいたった。90年代に大銀行の一つを所有する事に成功している。(140)

統一運動のあらゆる企業体に共通している点は、株式が特定の人物枠よってのみ分担されていることである。その人物とは、文鮮明、彼の妻、彼の子供たちと、「36家庭」の構成員である。(141)　それにより収益と権力は非常に限定された人物枠に集中することになる。

文鮮明の帝国における財力は過小評価されてはならない。もちろん、この経済帝国というものは韓国の10大財閥に属してはいないが(142)、専門家は文鮮明個人の投資だけでも50億ドルにも上ると見ているためである。(143)

文鮮明の財力が実際のところどれだけあるかは、誰も知ることはできない。統一運動の経済組織体への浸透はもはや見分けがつかなくなっているのである。1978年にはすでにフレーザーレポートは次のように断定している。

> 「それらの機能及び基盤となっている組織構造の多様性を見た場合、それは、製造、国際貿易、武器の注文、金融並びにその他の企業と連携したマルチインターナショナルな企業と酷似している。その活動はしかしながら、それが宗教的、教育的、文化的、イデオロギー的また政治的な企業を含んでいるという点において、それらを凌駕しているのである。(144)」

文鮮明はまた、世論に影響を与えるためのメディアも利用している。そのため、「ワシントン・タイムズ」を70年代初頭に獲得しているのである。(145)　彼は影響力を維持するために年間3,500万ドルもの補助金をこの新聞に当てているといわれている。(146)

ドイツにおいてもフランクフルトにあるカンドー出版社は統一運動の宣伝のための販売を引き受けているのである。(147)

そのほかにも文鮮明は南アメリカのもっとも近代的な印刷会社の一つをウルグアイのモンテビデオに所有しており、そこで印刷された日刊紙を南北アメリカの19の国家で出版される計画もある。(148)
また、南アメリカでラジオやテレビ局の買収も企てているようだ。(149)

そうして世論を操作するために、宗教的な教えを用いることも彼は隠していない。つまり、彼は思い通りにマクロ経済の発展を操作したいと望んでいるのである。

「こうしたシステムは、最終的には日本やドイツの人々は自国の製品をもはや個人的に購入するのではなしに、中央の指令で購入するようになるという形を取るのである。どういった思考形式で、またどのような経済システムでそうした指令が与えられるのであろうか。宗教こそが唯一それをなし得るシステムなのである。(150)」

かつてのアメリカ合衆国が文鮮明にとって好都合な投資地であった一方で、今や彼はその活動の重点を南アメリカへ移そうとしているように見える。中でもアルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイ、そしてブラジルに文鮮明の投資は集中する傾向にある。アルゼンチンでは、5億ドル規模のプロジェクトが同国の北西地区の開発を予定しており、そこには160もの貧しい国々から、農民や漁民を移住させることが考えられている。(151)

統一運動は、アフリカ、旧ソビエト連邦、中国そして北朝鮮においても経済的にその足場を固めようとしている。中国では文鮮明の影響を受けて、自動車工場と原子力発電所が建設されようとしている。北朝鮮の文鮮明の故郷周辺では3億5千万ドルの巨費を投じてレクリエーション地域が建設される予定もあるようだ。(152)

さらに、文鮮明の一つのユートピア的未来プロジェクトに国際平和ハイウェイ構想というものがあり、それは世界のあらゆる国々を結ぶのだそうだ。その出発地点は日本の東京で、日本は190キロメートルの海底トンネルによって韓国と結ばれるということだ。この文鮮明のアイデア実現のために100人の技術者が既に働いているといわれている。(153)

2．文化的な策謀

文鮮明の最初の文化的なプロジェクトは,1964年の「韓国文化自由財団」の創設である。ここには西側諸国の要人や、すべての元首たちの前でも披露した経験のある「リトル・エンジェルス」舞踏団も属している。フレーザーレポートは、軍隊にいる会員が、例えば韓国の秘密情報機関活動や密輸組織へ統一運動の外貨が投入されていることを確認している。こうした文化財団の下部組織として芸術家同盟、舞踏グループ、ジャズバンド、オーケストラ、コーラス隊などが含まれている。(154)

教育面でも同様に、浸透を目的にした国際組織が設立されている。そうした中でも我々にもっとも有名な組織の一つは「世界平和教授アカデミー」である。この会員として、毎年色々なシンポジウムで出会うような、あらゆる学術及び研究分野の著名な教授や専門家が属している。参加者の費用は同組織が受け持っている。(155)

この統一運動は、ブラジル、韓国そしてアメリカ合衆国にあるいくつかの大学を援助しており、とりわけ南アメリカ諸国の専門大学が前線における新たな信者を勧誘するための温床となっている。(156)

いくつかの幼稚園の建設は、子供についての統一運動的イデオロギーを家庭へ浸透させているようである。ドイツ・ギーセンでは幼稚園「こびと」に対して、いづれにせよ、市の援助は認可されていない。

同様にオーストリアでは、「フォーラム・オスト（東）」という教職者の向上研修の開催によって、その教職者研修を通じて、教育や子供へ影響を与えようという試みがなされている。(157)

3．軍事的野望

また、文鮮明は軍事分野にも接触し干渉する野望を持っている。つまり彼は彼の世界中の信者を大韓民国の名において配置すること考えているのである。仮に北朝鮮が韓国国民へ戦争を挑発した場合、統一運動の会員たちの考えでは、彼らの宗教的祖国を死守し、統一十字軍を組織して韓国とそして全世界の平和防衛を目的として、その戦争へ参加するというのは神の意志であるということなのだ。(158)
フレーザーレポートには1978年、統一運動に対して最終的に明らかになったこととして、「下部に位置する一般会員の教育と地域への配置を見ると、それは疑似軍事組織のようであり、他の観点から見た場合、規律に厳しい党派の特徴も持っている。(159)

4．政治的企て

文鮮明の政治的な見解は既に「原理講論」において述べられているが、彼は共産主義者を拒絶する一方、また民主主義者にも反しているのである。彼の説明によれば、国民の意思というものは自ずとキリスト教（統一教会のことを指している）へと傾倒していくという。彼らが望む歴史が近づくとき、国民の意志を代表する民主主義政権は、この「キリスト教的」政治体系に屈服しなければならないのである。(160)

かりに一国に十分な数の文鮮明の信奉者が居住した場合、民主主義政府への圧力は強められる可能性があり、そうなれば、最終的に統一運動のイデオロギーに屈しなければならないことになる。

「我々は真の父母と統一運動を真摯に受け入れる信者を一国に少なくとも１万人は必要としている。」(161)

民主主義は文鮮明にとって政治的に目指すものではなく、目的のための道具にすぎないのである。それはアベル側の代表者として共産主義を倒すという一点においてのみ有効であり、結局のところ文鮮明は一貫して民主主義を拒絶しているのである。(162)

文鮮明は彼の統一運動と共に世界規模の疑似国家的構造を実現することを目指している。彼は所有する地所（これは例えば投資や固定資産が「聖なる土地」となるのであるが）に対して、「旗」（白と赤の統一運動のシンボル）―それは文鮮明が登壇する際、背後に掲揚されるものであるが―の掲揚と、「歌」（「聖なる歌」の中から８つが選び出さ

れる）の唱和を命じている。「真のキリスト教徒」の国民が国家民族となるのである。

「聖なる土地」とは宗教的な祈りの施設だけではなく、この統一運動のために購入されるべき土地も重要となっている。つまり隣接する土地の正確な位置や書類はすべて統一運動のそれぞれの国の本部へ提出されなければならない。(163)　候補地は地方自治体のの領域の中で影響力を及ぼしそうなところが選ばれているようである。

文鮮明の政治介入を有利に働かせているのが、1960年代初頭の狂信的な反共産主義者たちである。彼らは文鮮明のために朴大統領政権下の韓国政府の下で経済的な利益を与えたのである。また、彼の最も初期の信奉者の一人であった韓国機密情報組織の創設者となった人物との友好関係が、彼により一層有利に作用した。フレーザーレポートは韓国の機密情報組織が統一運動の地下組織を計画して、彼のために動こうとしたという可能性を否定していない。この統一運動は、朴政権から送り込まれた韓国政府幹部のための反共産主義教育のキャンプをも支援していたのである。(164)

文鮮明は、自分は神に望まれた韓国の指導者なのだから、韓国大統領に指名されて当然である。いかなる大統領も、彼らの政治的使命を果たすことはできない、なぜならば、彼らは私と共に共同で事にあたるという気がないからである、ということを今日主張しているのである。(164)

統一運動の政治面での影響力の現れの一つがは先に述べた「Confederation of Assocations for the Unity of the Societies in the Americans」であり、ドイツではボンにその拠点がある。同組織は世界規模で指導者のためのセミナーを開催しており、また、「神主義」と「頭翼思想」という哲学を喧伝している。これは「原理講論」の神話部分をなくした軍事体系の統一教義そのものである。その下部組織が「学生CARP統一」と「国際安全保障協議会」である。ISCの年間を通した会合で、軍部や経済における著名な代表者が集まり、政治的な世界情勢の評価をまとめている。(166)

CAUSAの幹部が模索しているのが、ドイツ国内や他の地域において、独立した党を設立するということだが、これは未だ成功には至っていない。(167)

文鮮明とその幹部達が今日まで意識的に試みていることは、彼らの目的のために公人を利用するということである。文鮮明の組織を通じて、経済及び文化面では様々な諸行事の機会を利用して、大統領、代議士、その他の有名人、著名人とのインタビューや写真撮影をする機会が生じており(168)、前アメリカ大統領ブッシュ夫妻は、例えばこうした行事には常時演説者となり、文鮮明とともに日本へ講演のために訪れているのである。(169)

獲得した公人を文鮮明は韓国政府に対しても、西側諸国における彼の重要性を示威する

ために利用しているのである。そうすることにより、元首たちが文鮮明のイデオロギーを支持し、予定されている社会の変革並びに統一運動の目的達成が間近であるかのように文鮮明は信者に信じさせている訳である。(170)